記　入　日　　2017 年 12 月 26 日

１．概　要

実践団体名	大船渡市立日頃市中学校		
連絡先	０１９２－２８－２３０２		
プランタイトル	私たちの町「日頃市」～ふるさとの復興の力となろう		
プランの対象者※1	4　中学生 8　教職員 10　地域住民	**対象とする災害種別**※2	7　災害全般

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- 中学生が「自分の命は自分で守る」ための力を全校での活動を通して学び、身につける。
- 「ふるさとの復興のために中学生である自分たちに何ができるか」を考え、行動することでふるさとを大切にする気持ちを育てる。
- 自分たちの活動の様子を新聞やブログで発信するとともに、「被災地からの被災地支援」（恩送りプロジェクト）で活動の輪を広げる。

【プランの概要】

- 学校を避難所に見立てた疑似避難所体験「防災キャンプ」の実施。
- 防災講演会や被災地スタディツアーで復興と防災について学ぶ。
- 隣接する小学校と合同で、大雨災害に対応する避難訓練を行う。
- テレビ局とのタイアップで防災教育の授業の様子をテレビ番組として放送する。
- 被災地からの被災地支援活動「タオルハンガー」による恩送りプロジェクトの実施

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 地域の活性化、復興の促進の力になる⇒郷土愛、ボランティア精神の情勢。
- 災害に対する心構えをもち、有事に対する備えを行うことができる。
- 支援の輪が広がり、他団体や他校とのつながりを持つことができる。
- 小規模校の特長を生かし、全校体制で取り組みを行うことで生徒の自主性や責任感が育つ

２．プランの年間活動記録（2017 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	・チャレンジプランオリエンテーション	・チャレンジプラン年間活動計画の作成	・チャレンジプラン年間の見通し ・活動内容の計画
5 月	・地域写真集作成開始（～12 月） ・タオルハンガー作成開始	・デジタルカメラの生徒の配布 ・地域写真の撮影開始	・ニコンによる写真教室の開催 ・撮影計画の作成 ・新入生を対象にタオルハンガーの作り方講習
6 月	・五葉山登山 ・防災キャンププレゼン提案	・五葉山登山に関する計画を PTA と協働で立案	
7 月	・五葉山清掃ボランティア登山 ・防災キャンプの計画と調整 ・被災地スタディツアーの計画	・防災キャンプ準備（学年で担当した内容についての計画、準備）	・地域にある県立公園五葉山に親子で登り、登山道の清掃活動を行う ・山小屋で使う薪を自分たちで背負って運ぶ ・防災キャンプ（1 泊 2 日）実施 ・岩手大学森本教授による防災講演会の実施
8 月	・小中合同避難訓練について地区公民館、小学校と打ち合わせ	・大雨に備えての避難経路の調査、2 時避難所となる会社への協力依頼	・被災地スタディツアー（大船渡市と釜石市の被災地域をバスでまわる） ・絵本作家「指田　和」さんによる講演会実施
9 月	・大船渡市役所と椿の実拾いについての計画立案		・大雨・洪水被害を想定し、消防署や地域の協力を得ながら小中合同で避難訓練を実施 ・テレビ岩手「防災手帳の活用について」東北大学の今村先生の授業を実施。授業の様子をテレビ番組に。
10 月			・全校ボランティア（椿の実拾い） ・椿の実を集めて小川中への支援金にする ・テレビ岩手で「防災手帳の活用について」の番組が放映

11 月	・地域写真集の編集		・生徒が撮影した写真を大船渡市農協日頃市支店に展示 ・個人写真集に編集 （ニコンフォトプロジェクト）
12 月	・活動報告書の作成		・台風 10 号被害の小川中学校へタオルハンガー60 個と募金 2 万円を送付 （タオルハンガーはここまでで約 800 個作成） ・実践のまとめ、報告書作成
1 月			
2 月			
3 月			

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　１】※3

タイトル	防災チャレンジキャンプ
実施月日（曜日）	７月 24 日（月）～7 月 25 日（火）
実施場所	日頃市中学校　体育館、校庭他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：鎌田　　慎 所属・役職等：大船渡市立日頃市中学校　副校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	24 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	13　体験学習
活動目的※5	５　災害を疑似体験
達成目標	自分たちで、疑似避難所体験をすることにより、災害に対する生徒の意識が高まる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・日時、状況設定、プログラム例の提示 ・学年で担当を決定（安全、食、住） ・学年でプログラム案を作成 ・実行委員会で往路グラム案を精査、全体の流れ決定、講師依頼 ・担当を決定し、必要物品の準備・購入
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	㊣災害非常食、さつまいも、バナナ、無洗米、炊飯袋、ミネラルウオーター、火ばさみ、おわん、ラップ、フォイル ㊟畳、テント、段ボール、LED ランタン、アルミロールマット
参加人数	生徒 27 名　職員 11 名　計 38 名
経費の総額･内訳概要	36,098 円（食料、ランタン、ロールマット、食器等）
成果と課題	【成果】 ・計画段階から生徒を中心に取り組み自主的な活動ができた ・昨年度の経験を生かして、上学年が下学年をサポートできた 【課題】 ・準備にかかる時間の確保 ・費用の捻出
成果物	防災キャンプマニュアル

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	防災講演会（岩手大学　森本教授）
実施月日（曜日）	7 月 24 日（月）
実施場所	日頃市中学校　多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：森本　晋也 所属・役職等：岩手大学　教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	２講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	８防災意識を高める
達成目標	「助けられる人から助ける人へ」生徒の意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・講師依頼 ・講演内容の打ち合わせ ・会場準備 ・講師紹介、講演 ・感想の記入
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・プロジェクター、パソコン、スクリーン ・いす
参加人数	生徒 27 名　職員 11 名　計 38 名
経費の総額・内訳概要	講師謝金　7,000 円
成果と課題	【成果】 ・同じ中学生である釜石東中の生徒が行った実践を学び、中学生であってもいざというとき生き抜く力があることが分かり、生徒の意識向上につながった ・岩手県の復興・防災教育の取り組みについて知ることができた
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　３　】※3

タイトル	大雨洪水ワークショップ
実施月日（曜日）	7 月 24 日（月）
実施場所	日頃市中学校　多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏　　名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	90 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	２　ワークショップ
活動目的※5	５災害を疑似体験
達成目標	大雨警報が発令されている中、いつ、どのように避難したらよいか考えることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・イントロダクション（活動の方法の理解） ・レクチャー（大雨・洪水についての知識理解） ・グループワーク（豪雨災害避難のシミュレーション） ・まとめ（グループワークの共有） ・事後アンケートの記入
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師　盛岡地方気象台 防災気象官　　三上康治 土砂災害気象官　砂子　幸弘 防災業務係長　　齊藤　伸次 ・プロジェクター、パソコン、机、いす、マジックペン
参加人数	生徒 27 名　職員 11 名　計 38 名
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・大雨洪水被害の恐ろしさについて学ぶことができた ・大雨洪水警報、注意報の重要性を学ぶことができた ・安全な避難の方法について考えることができた
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　4　】※3

タイトル	救命救急法講習
実施月日（曜日）	7 月 25 日（火）
実施場所	日頃市中学校　多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：救命救急士（3 名） 所属・役職等：大船渡消防署
所要時間または「コマ数×単位時間」	150 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	２講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	９災害対応力の育成
達成目標	AED を使用した救命救急法を学び、非常時に対応する能力を身につける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・講師の紹介 ・グループ分け（3 グループ） ・AED の使い方のレクチャー ・グループに分かれて実際に AED を使用した救命救急法の実践訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	大船渡消防署に依頼、必要な機材（訓練用 AED、訓練用人形）もすべて用意していただいた
参加人数	生徒 27 名　職員 11 名　計 38 名
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・AED の使用をしたことがない生徒たちが実際の場面を想定して実戦訓練を行うことができた。 ・AED の使い方や、倒れた人を見かけたときの対応の仕方を学ぶことができた
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　５　】※3

タイトル	被災地スタディツアー
実施月日（曜日）	8 月 17 日（木）
実施場所	大船渡市－釜石市
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：村上　洋子 所属・役職等：大船渡市立日頃市中学校　校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	6 時間 30 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習・移動教室
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	被災地の現状を知り、復興と防災に尽力する方々のお話を聞く
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・日頃市中学校発－吉浜（津波記憶石見学）－釜石大観音（震災慰霊塔の見学）－釜石市役所－釜石市鵜住居地区災害復旧工事の様子－宝来館（女将さんからお話を聞く）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・釜石市役所付近に津波が押し寄せている映像 ・貸し切りバス 1 台
参加人数	本校生徒 27 名、職員 10 名　東京都銀座中学校生徒 2 名　東京都両国中学校生徒 2 名　仙台市東北学院中学校生徒 1 名
経費の総額・内訳概要	バス借り上げ 86,400 円（いわての復興防災スクール事業から拠出）
成果と課題	【成果】 ・実際に津波被害にあっていない本校の生徒が、被災時の様子を学び、復興に歩む郷土の様子を目の当たりにすることで、そこに込められた人々の思いを知ることができた。 【課題】 ・バスの借り上げに費用がかかる
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　６　】※3

タイトル	復興講演会（指田　和さん）
実施月日（曜日）	8 月 21 日（月）
実施場所	日頃市中学校　多目的ホール
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏　　名：指田　和 所属・役職等：絵本作家
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 コマ×50 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	２講演会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	８防災意識を高める
達成目標	復興のために様々な活動をされている指田さんからお話を聞き
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・講師依頼 ・宿泊手配 ・講演会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・プロジェクター、パソコン
参加人数	生徒 27 名　職員 12 名　計 39 名
経費の総額･内訳概要	総額　44,580 円（いわての復興防災スクール事業から拠出） 講師謝金 8,000 円　旅費（交通費、宿泊費）36,580 円
成果と課題	【成果】 ・阪神淡路大震災を契機に復興支援の活動を行う指田さんのお話を伺うことで被災地の復興のために活動する方々の考えや思いを知り、生徒が復興のために自分たちにも何かできることはないか考えさせることができた
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　7　】※3

タイトル	小中合同避難訓練
実施月日（曜日）	9 月 1 日
実施場所	日頃市中学校体育館（1 次避難）－藤原製作所（2 次避難）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：鎌田　慎 所属・役職等：大船渡市立日頃市中学校　副校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	70 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	１６避難・防災訓練
活動目的※5	４災害を想定した訓練
達成目標	中学生が小学生をサポートし、地域と協力して安全に避難する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・小学校、地区公民館との打ち合わせ ・大船渡消防署への協力依頼 ・2 次避難場所（藤原製作所）への連絡 ・特別養護老人ホーム「ひころいちの郷」へ避難日程の連絡 ・1 次避難（日頃市中学校体育館）→2 次避難（藤原製作所） 地域の方々に見守られながら、小学生と中学生が一緒に避難
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・メガフォン ・計時用ストップウオッチ ・避難者名簿 ・ヘルメット（中学生用）
参加人数	小学生 72 名中学生 27 名　職員（小中併せて）24 名　地域の方々10 名　ひころいちの郷の方々15 名
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・安全な避難経路の確認と 2 次避難場所の設定ができた ・中学生が小学生をサポートして避難することができた ・地域の防災意識が高まった（小学生にヘルメットの寄贈） 【課題】 ・防災の日だったため、消防署が他の出動要請がありさんあｋできなかった。日程を調整する必要がある
成果物	大雨・洪水時における小中合同避難マニュアル

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　８　】※3

タイトル	「ぼくわたしの防災手帳」活用講座
実施月日（曜日）	9 月 28 日（木）
実施場所	日頃市中学校 2 年教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：鎌田　慎 所属・役職等：大船渡市立日頃市中学校　副校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 コマ×50 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	１１出前授業
活動目的※5	６防災に関する知識を深める
達成目標	防災手帳を活用し、災害時にどのように行動すればよいかを学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・主催するテレビ局との打ち合わせ（授業会場、費用な機材） ・「ぼくのわたしの防災手帳」を活用しながら授業形式で防災について学ぶ ・非常時の備えとして準備しておくものや、災害時の行動について学ぶ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・「ぼくのわたしの防災手帳」テレビ岩手発行 ・大型テレビ（映像提示用） ・講師　東北大学災害科学研究所　所長　今村先生
参加人数	全校生徒２７名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・防災手帳に書かれていることをもとに、災害時の行動について生徒が考える機会となった。 ・岩手県内でテレビ放映されたことにより、本校の防災に対する活動が紹介された。 ・生徒が、災害に対する備えを普段からしておかなければならないことを意識するようになった
成果物	・「ぼくわたしの防災手帳」授業実践 DVD（テレビ岩手制作）

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　９　】※3

タイトル	タオルハンガー
実施月日（曜日）	５月～１２月
実施場所	日頃市中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：村上　洋子 所属・役職等：日頃市中学校　校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	①タオルハンガー製作についての説明と実習（１時間） ②製作活動（生徒のボランティア活動として適宜）
プログラムのカテゴリ、形式※4	１７その他（製作活動）
活動目的※5	２防災に役立つ資料・材料作り
達成目標	自分たちが受けた支援に対する感謝の気持ちと、被災地への応援のためにはるかのひまわりの種が入ったタオルハンガーとメッセージカードを製作し多くの方々に送る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・製作の意義、目的の説明（ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ） ・製作の手順の説明 ・製作体験（学年毎） ・休み時間や放課後の時間を使っての製作 ・製作したタオルハンガーの袋詰め、タグ付け ・発送
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・花や豆、植物の種・透明ホース・綿・丸棒・メッセージカード ・麻紐・日頃市中学校のタグ・菜箸・ｾﾛﾊﾝﾃｰﾌﾟ
参加人数	全校生徒２７名、職員１３名
経費の総額･内訳概要	￥７５，４６５円（自己資金とチャレンジプランからの支出） タオルハンガー材料費（綿、丸棒、透明ホース、豆） メッセージカード印刷 （レーザープリンタトナー、インクジェットカラーインク）
成果と課題	【成果】 ・全校生徒が活動に参加することができる ・花の種を贈り、その花が咲くことで活動が継続する ・感謝の気持ちを伝えることができる 【課題】 ・製作するための時間の確保が難しい ・生徒の人数が少ないために、数をつくるために時間がかかってしまう
成果物	タオルハンガー（現在までで約８００個作成）

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１０　】※3

タイトル	家庭科における防災授業「災害にあったときの食事は」
実施月日（曜日）	１０月６日（金）
実施場所	日頃市中学校　技術室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：野口裕美子 所属・役職等：日頃市中学校　教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	２コマ×５０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	５教科学習
活動目的※5	９災害対応能力の育成
達成目標	災害時の食事において、水を大切にして健康的食事をととのえるにはどのような工夫が必要なのか考えることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・災害時にはどんなことが起きるのか考える ・電気・ガス・水道がフック宇するまで、食料の援助がなかった場合どうするか考える ・水の節約と健康的な食事という視点から食事を整えるための工夫を考える ・ポリ袋を使った調理を体験する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	備蓄食料の実物 ポリ袋、ラップ、ペットボトルの水
参加人数	日頃市中学校　２学年生徒７名　職員１１名
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・防災手帳講座で今村先生から学んだ災害時に備える内容を発展させて、食事という観点から栄養と健康を考えさせることができた ・防災キャンプでの調理体験を生かして、学習を深めることができた
成果物	

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	・防災キャンプは昨年の経験を生かし、2・3 年生が活動をリードし、生徒が企画段階から参加して活動を推進するようにした。このことによって、生徒の責任感がうまれ、活動に対する意欲が高まった。 ・キャンプのプログラムとして参考となる例を紹介しながら、本校の実情に合わせた活動はどれがよいかを検討し、学年で担当する部分の準備をすることができた。 ・岩手県の復興防災スクールの指定を受けたことで、予算措置があったため、講師を呼んでの講演会やスタディツアーを行うことができた。 ・学校が実行の主体となりながらも、気象台やテレビ局、消防署などの協力を得ることで費用や準備等の負担を減らすことができた。
準備活動で苦労した点工夫した点	・公的な機関や外部機関との連携を取りながら活動することができ、学校だけでは準備できない資料や場を提供していただくことでや活動の幅を広げることができた。 ・活動に必要な物品については、できるだけ校内にあるものや手に入りやすいものとし、新規に購入しなければならないものを極力少なくした。また、購入しなければならない場合にもできるだけ費用がかからないように工夫した（100 円ショップの活用など） ・防災キャンプ（避難所体験）は昨年の経験を生かして準備がスムーズにできた。
実践に当たって苦労した点工夫した点	・すべてを学校が行うのではなく、消防署やを得ながら、専門的な部分は専門家に教えていただいた。また、学年毎に担当するプログラムを決めたことで、担当の部分については、生徒が説明し活動を進めることができた。 ・既存の教育課程や行事、放課後の時間に活動を組み込むことで、防災学習の時間を確保することができた。 ・授業や行事の中で防災教育を進める取り組みを行うことができたが、いくつかの授業実践の記録を取ることができなかった。（道徳や理科の実践）防災に関わる授業を行うときには記録をとれるように体制を整えておく必要があった。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	・日頃市保育園、日頃市小学校 ・東北大学防災科学研究所 ・岩手大学	・地域合同避難訓練の計画作成 ・防災手帳講座講師 所長　今村先生 ・防災講演会講師 森本先生
保護者・ＰＴＡの組織	・日頃市中学校 PTA	・五葉山親子ボランティア登山への同行
地域組織	・五葉山自然倶楽部 ・県立公園五葉山管理事務所 ・日頃市地区公民館	・五葉山親子ボランティア登山案内 ・地域合同避難訓練の計画作成
国・地方公共団体・公共施設	・大船渡消防署 ・大船渡市役所	・救命救急法講座 ・「椿」学習の支援、椿の実の買い取り
企業・産業関連の組合等	・株式会社ニコン ・株式会社テレビ岩手	・地域写真集作成のための写真講座の開催 ・地域写真集の印刷及び製本 ・防災手帳講座の番組制作
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	・公益社団法人日本フィランソロピー協会	・チャリティリレーマラソン 2,017 による活動支援金の援助
職業、職能団体・学術組織、学会等		

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	・生徒の防災意識を高めることができた。 ・地域理解や地域との関わりを深めることができた。 ・他校や他地域との繋がりを持つことができた。 ・生徒に「自分たちにもできることがある」という自信を持たせることができた。 ・実際に想定される大雨・洪水被害に対する避難訓練を行うことができた。 ・小学校との連携を強めることができた。
全体の反省・感想・課題	・生徒の人数が減少（全校生徒 27 名）。一人一人の活動に係る負担が大きくなっている。 ・色々な活動を取り入れていくと、他の活動と時間が重なり時間が足りない。 ・年々防災に対する力は高まっているが、マンネリ化してしまわないように企画していく必要がある。 ・公的な機関や市民団体と協力して活動していくことが大切。 ・主体となって進めていた教師が転勤すると取り組みが継続できなくなってしまう。 ・来年度から、学校統合に向けた動きが本格化していくので取り組みの時間をうみだすのは更に難しくなると思われる。
今後の継続予定	・今年度は、岩手県の防災復興スクールの指定を受けたことで様々な活動を行うことができたが、来年度は学校統合への動きや、職員の異動により今まで通りの活動を継続していくことは難しい。 ・防災キャンプなどのイベント的な防災教育活動から、日常の授業や行事に防災教育を取り入れていくことで今まで培ってきた防災意識を継続しながら、時間をかけず、無理のない取り組みを継続していきたい。

7．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

＜防災キャンプの様子＞

「大雨・洪水ワークショップ」

「森本教授による講演会」

「炊飯袋を使っての野外炊事」

「救命救急法講座」

「教室内にテントを張って居住スペース作り」

「夜間避難訓練」

（自由記述：　1／3）

＜被災地スタディツアー＞

「大船渡市吉浜地区の津波記念石」

「釜石市鵜住居町　宝来館での講演会」

＜はるかのひまわりの作者　指田　和さん講演会

＜小中合同避難訓練＞

（自由記述：２／３）

＜ぼくわたしの防災手帳活用講座＞　東北大学　今村教授の授業

＜五葉山　清掃登山＞

＜タオルハンガー＞

（自由記述：３／３）